

焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



## その子に合った訊き方とは？

無料サイト「絵本ひろば」から1話ずつ選び、通級指導の中で毎時間読み聞かせをしています。おもしろい、楽しいだけではないお話があり、読んだ後で子ども達とお話の余韻（筆者が伝えたかったこと）を共有しています。



ある日、通級指導の記録を読んだAさんの担任からこのようなコメントが届きました。「Aさんは、主人公が何をして、どう思ったかを捉えたり、自分だったら…と考えたりすることがあまり得意ではないようです。」

その後の指導で、担任から聞いたAさんの表れと、まなびの教室のAさんの表れと重なる場面がありました。

主人公の「花」が、「なかよく、じゅんばんに」行動することで、いくつかの問題を解決していくという絵本を読み聞かせた後の、Aさんと荒井とのやりとりを紹介します。

T： 私たち人間も「なかよく じゅんばんに」するといいことって何かな？

C： 赤ちゃんが大人になること。

T： そうだね、赤ちゃんから大人になって子どもになるのは変なものね。大きくなるのは順番があるものね。

こういう時は、どうかな。ブランコが1つあります。5人の子ども達がブランコに乗りたがっていて、一度に5人がブランコに乗りました。ブランコは壊れそうです。

C： ブランコを直せばいい。

T： ブランコを直しました。また、5人の子ども達は一度にブランコに乗ろうとしています。また壊れてしまいそうです。

C： ブランコを作ればいい。

T： ブランコは1つしかありません。どうしたらいいでしょうか。

C： …（「なかよく じゅんばんに」という言葉は、本児からは出てきませんでした。）

Aさんにとって、自分事として捉えることや自分事として考えることは、苦手なことだと思われます。場面が変わると、話題の共有ができにくい様子もあります。

国語の授業で感想や考えを書く時や道徳の授業で登場人物の気持ちの移り変わりを追う時に、一見的外れに見えることを書いたり話したり、あるいはまったく思いつかず書けなかったりする子がいます。本人は真面目に考えているのに、わからなかったり、答えがずれてしまったりする子ども達がいるのです。

では、どうしたらいいのでしょうか。子どもが答えやすいように、大人の側が訊き方（質問の仕方）を変えてみるというかもしれません。「オープンクエスチョン」ではなく、「クローズドクエスチョン」です。先ほどの会話も、質問の仕方を変えたら、本児の反応が変わっていたかもしれません。



T：ブランコが1つあります。5人の子ども達がブランコに乗りたがっていて、一度に5人がブランコに乗りました。ブランコは壊れそうです。このままでいいかな？

C：よくない。

T：一度に5人がブランコに乗るのは、なぜよくないのかな？

C：危ないから。

T：そうだね。危なくならないように、今するといいいことは何か？

C：「なかよく じゅんばんに」乗ること。

Aさんにとって大事なことは、Aさんが、どのような感じ方や受け止め方をしやすいのか、どのような感性の持ち主であるのかということに、周りの大人（保護者や担任 など）が気づき、接することではないでしょうか。（反省!!）

以前出会った女の子に、「国語と道徳と学活は、答えが1つじゃないから苦手」と言われたことを思い出しました。Aさんに通ずる部分があるように感じます。